

山形病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【山形病院の基本情報】

医療機関名：独立行政法人国立病院機構山形病院

開設主体：独立行政法人国立病院機構

所在地：山形県山形市行才126番地2

許可病床数：308床

（病床の種別）一般278床、結核30床

（病床機能別）回復期52床、慢性期226床

稼働病床数：308床

（病床の種別）一般278床、結核30床

（病床機能別）慢性期226床、回復期52床

診療科目：内科、呼吸器内科、循環器内科、神経内科、整形外科、脳神経外科、精神科、
小児科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科

職員数：

- ・ 医師 15名
- ・ 看護職員 205名
- ・ 専門職 86名
- ・ 事務職員 22名

【1. 現状と課題】（第6次山形県保健医療計画より引用）

① 構想区域の現状

- 人口は減少するものの、東村山地域の後期高齢者が増加するため、2025年の入院患者の総数は増加が見込まれています。また入院患者数が多いがんや脳卒中等による入院患者数の増加も見込まれています。
- 人口構造の変化により、肺炎や骨折による入院患者の増加率が高く、妊娠・分娩による入院患者は減少することが見込まれています。
- 肺がん、乳がん、肝がん、化学療法、放射線治療、糖尿病、小児医療、周産期医療の入院患者については、最上・置賜構想区域の患者を受け入れている現状にあります。
- 石村山地域及び北村山地域の入院患者数は現在においても減少傾向にあり、県立河北病院、寒河江市立病院、朝日町立病院、西川町立病院、北村山公立病院の西村山地域や北村山地域の病院では、病棟によって既に病床の利用率が低い医療機関もあります。

② 構想区域の課題

- 現在の病床数と推計による必要病床数を比較すると高度急性期、急性期が過剰であり、回復期が不足する状況にあるため、将来の医療需要に対応する体制整備が必要となっています。
- 高度急性期・急性期を担う病院と回復期・慢性期を担う病院との機能分担や地域包括ケアシステムを担う介護施設等との連携について、地域全体で検討を進める必要があります。

③ 自施設の現状

○ 国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のためにたゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます

○ 国立病院機構山形病院の理念

「患者さんに優しく、信頼される医療で社会に貢献します」

- 1 神経難病（てんかん含む）、重症心身障がい、リハビリテーション、結核、高齢者医療に対して良質な医療を提供します。
- 2 医療連携を密にして地域に開かれた病院を目指します。
- 3 良き医療人として、知識・技術と人間性を養い、常に自己研鑽に努めます。
- 4 医師、看護師等の人材を確保し、健全な経営基盤を構築します

○ 診療実績

【届出入院基本料】	障害者施設等入院基本料	7対1
	一般病棟入院基本料	15対1
	結核病棟入院基本料	15対1
【平均在院日数】	128.7日	
【病床稼働率】	86.2%	

○ 当院の特徴

慢性期機能を中心に一部回復期機能を持つ

○ 山形病院の担う医療

県内の他病院にはない専門的医療を展開しており、神経難病にあつては、山形県より難病拠点病院として指定を受けており、病気の診断から慢性期治療までを一貫して行い、リハビリテーションは、急性期病院からの紹介を得て在宅に返すべく回復期のリハビリテーションを行うのみならず、山形県よりの委託事業として高次脳機能障がい者支援センターにて障害者の社会復帰の支援を行っている。てんかんは、てんかんセンターとして東北各地から患者の紹介を受けて、新規抗てんかん薬による薬物治療等専門的な医療を行っている。重症心身障がい児者に対しては、県内3カ所（当院、米沢病院、山形県立こども医療療育センター）による医療・療育の連携を図っている。

④ 自施設の課題

- 当院の6階病棟は呼吸器内科（20床）と結核（30床）の混合病棟であるが、結核入院患者が1日平均10.1人（H28年度実績）と少なく、非効率な運営となっていることから、結核病床30床を一般病床22床へ種別変更を行い神経難病患者の受入病床として運用、また一般病床のなかに結核患者収容モデル病床6床を設置する計画で関係各署と調整を図っている。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 神経難病患者に対する医療は、村山医療圏のみならず県内から広く患者を受け入れており、難病拠点病院として早期診断から長期療養に係る医療を提供する慢性期機能を維持する。
- ・ 重症心身障害児者に対する医療については、村山医療圏のみならず県内から広く患者を受け入れており、県内に3カ所（当院、米沢病院、山形県立こども医療療育センター）と連携を図りつつ慢性期機能を維持する。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 山形県の要望を受けて、神経難病患者に対する医療は現在の慢性期機能を維持しつつ、病床規模の拡充を図る。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	52		52
慢性期	226		248
(合計)	278		300

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度		結核病床30床を一般病床22床へ種別変更 結核患者収容モデル病床6床の整備	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">集中的な検討を促進 2年間程度で</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">第7期 介護保険 事業計画</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第8期 介護保険 事業計画</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px; writing-mode: vertical-rl;">第7次医療計画</div> </div>
2018年度			
2019～2020年度			
2021～2023年度			

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：90%
- ・ 手術室稼働率：-
- ・ 紹介率：65%
- ・ 逆紹介率：50%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：

その他：

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】
(自由記載)